「介護現場における特定の医行為の必要性に関する実態調査」の報告

運営サポーターアンケート運営部会
部会長　柏本 英子

【方法】

調査対象：557 名（2024 年 9 月 4 日時点の運営サポーター登録者数）
調査方法：Google フォーム
調査期間：2024 年 8 月 21 日～9 月 4 日
有効回答：176 件（有効回答率 31.6%）

【主な結果】

1. 基本属性

（1）回答者の年齢と資格取得後の年数

回答者の年齢は、40 歳代が最も多く 75 人（42.6%）、次いで 50 歳代が 57 人（32.4%）だった。介護福祉士資格を取得してから現在までの期間は、20 年以上が最も多く 77 人（43.8%）、次いで 10～15 年未満、15 年～20 年未満でそれぞれ 28 人（15.9%）だった。

表 1　回答者の年齢と資格取得後の年数　　n＝176

年齢	人数	（%）	資格取得年数	人数	（%）
20～29歳	4	2.3%	1年未満	1	0.6%
30～39歳	19	10.8%	1～5年未満	12	6.8%
40～49歳	75	42.6%	5～10年未満	30	17.0%
50～59歳	57	32.4%	10～15年未満	28	15.9%
60～69歳	18	10.2%	15～20年未満	28	15.9%
70歳以上	3	1.7%	20年以上	77	43.8%

（2）回答者の勤務先の種別、職種と勤務先の運営主体

回答者の勤務先の種別では、高齢者施設が最も多く 72 人(40.9%)、次いで高齢者在宅サービスが 37 人(21.0%)だった。

回答者の勤務先での職種は、「介護福祉職」が最も多く 79 人（44.9%)、次いで「管理職等」37 人（21.0%）だった。

勤務先の運営主体は、「社会福祉法人」が最も多く 74 人（42.0%)、次いで「株式会社等」が 41 人（23.3%）だった。

表 2　勤務先の種別　　n＝176

種別	人数	（%）
高齢者施設	72	40.9%
高齢者在宅サービス	37	21.0%
障害者支援施設	10	5.7%
障害者在宅サービス	7	4.0%
病院・診療所	17	9.7%
教育関係	10	5.7%
その他	23	13.1%

注 1「**高齢者施設**」：（地域密着型）介護老人福祉施設、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅
「**高齢者在宅サービス**」：訪問介護・訪問入浴介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護、看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護
「**障害者支援施設**」：障害者支援施設
「**障害者在宅サービス**」：居宅介護、重度訪問介護
「**病院・診療所**」：病院・診療所
「**教育関係**」：特別支援学校、特別支援学級、大学、短大、専門学校等
「**その他**」：居宅介護支援事業所、行政、社会福祉協議会、職業訓練校、職能団体　等

表 3　回答者の職種、勤務先の運営主体　　n＝176

職種	人数	（%）	運営主体	人数	（%）
介護福祉職	79	44.9%	国、地方公共団体等の公的機関	11	6.3%
相談援助職	12	6.8%	社会福祉法人	74	42.0%
介護支援専門員等	19	10.8%	（一般・公益）財団・社団法人、宗教法人、独立行政法人、学校法人等の非営利法人	15	8.5%
管理者等	37	21.0%	医療法人等、病院・診療所を開設する法人及び個人	30	17.0%
事務職	7	4.0%	株式会社、有限会社（特例有限会社）、合同会社、合資会社、合名会社等の営利法人	41	23.3%
養成校教員	8	4.5%	生活協同組合、農業協同組合、企業組合等の協同組合	1	0.6%
その他	14	8.0%	その他	4	2.3%

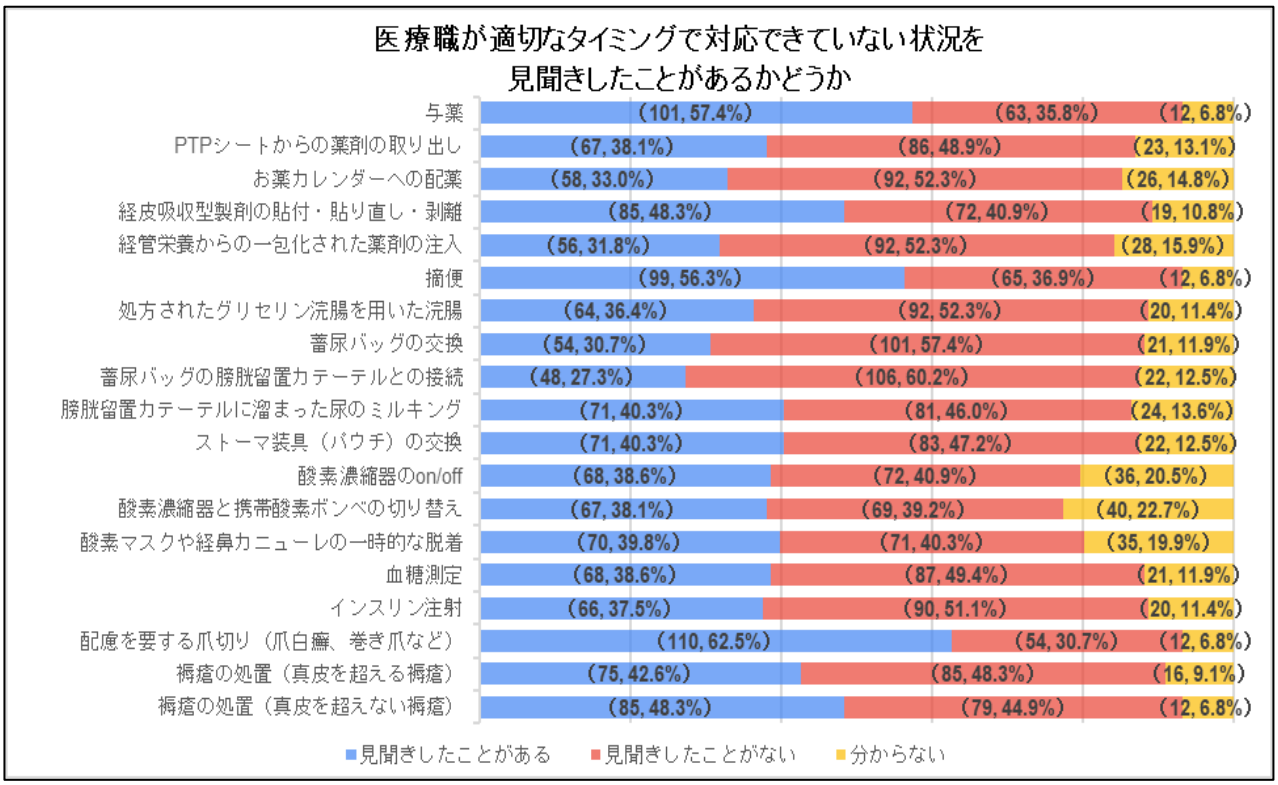
注 2「**介護福祉職**」：介護職員、訪問介護員、生活支援援助員等＊直接介護を行う職種
「**相談援助職**」：生活相談員、支援相談員、相談支援従事者等
「**介護支援専門員等**」：介護支援専門員、計画作成担当者、サービス管理責任者
「**管理者等**」：管理者、管理責任者、所長、施設長等

２．特定の医行為に関する現状について

本アンケートでは、図１の結果一覧に示す「介護職員が実施可能と整理されていない行為」（本アンケート内では、「医行為」と呼称した。）について、介護現場で、医療職が適切に対応しきれていない状況を見聞きしたことがあるか質問した。

なお、ここでいう、医療職が適切なタイミングで対応しきれていない状況とは、「その行為が行われないことで、利用者の生活リズムが崩れる（食事や着替えのタイミングがずれるなど）可能性があると判断される場合」や「その行為が行われないことで、利用者の快適な生活・暮らしが脅かされる（清潔保持ができないままになるなど）可能性があると判断される場合」などを想定・イメージしており、この点は質問するに当たって提示した。

図１　結果一覧　　n＝176



（１） 服薬等に関する医行為について

介護現場において、服薬等に関する医行為に、医療職が適切なタイミングで対応しきれていない状況を見聞きしたことがあるか質問したところ（図 2)、与薬については、「見聞きしたことがある」が 101 人（57.4%)、「見聞きしたことがない」が 63 人（35.8%)、「分からない」が 12 人（6.8%）であった。PTP シートからの薬剤の取り出しについては、「見聞きしたことがある」が 67 人（38.1%)、「見聞きしたことがない」が 86 人（48.9%)、「分からない」が 23 人（13.1%）であった。お薬カレンダーへの配薬については、「見聞きしたことがある」が 58 人（33.0%)、「見聞きしたことがない」が 92 人（52.3%)、「分からない」が 26 人（14.8%）であった。経皮吸収型製剤の貼付・貼り直し・剥離については、「見聞きしたことがある」が 85 人（48.3%)、「見聞きしたことがない」が 72 人（40.9%)、「分からない」が 19 人（10.8%）であった。経管栄養からの一包化された薬剤の注入については、「見聞きしたことがある」が 56 人（31.8%)、「見聞きしたことがない」が 92 人（52.3%)、「分からない」が 28 人（15.9%）であった。

図２　服薬等に関する医行為について　　n＝176

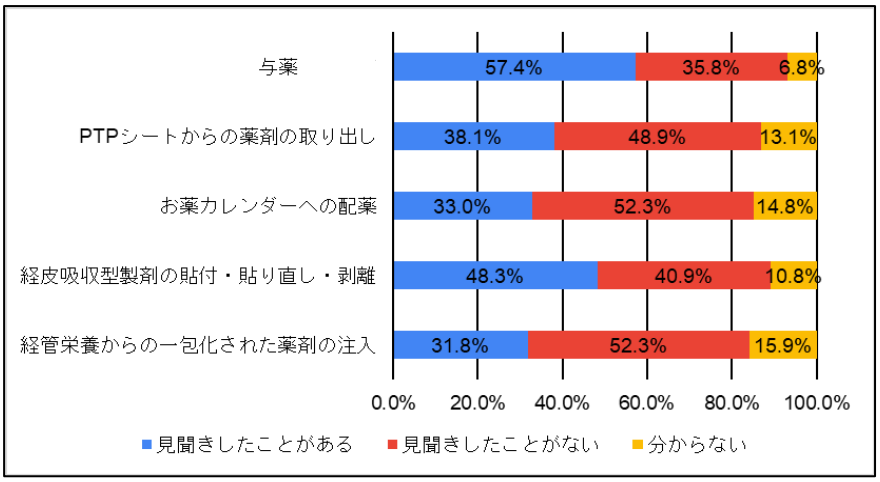


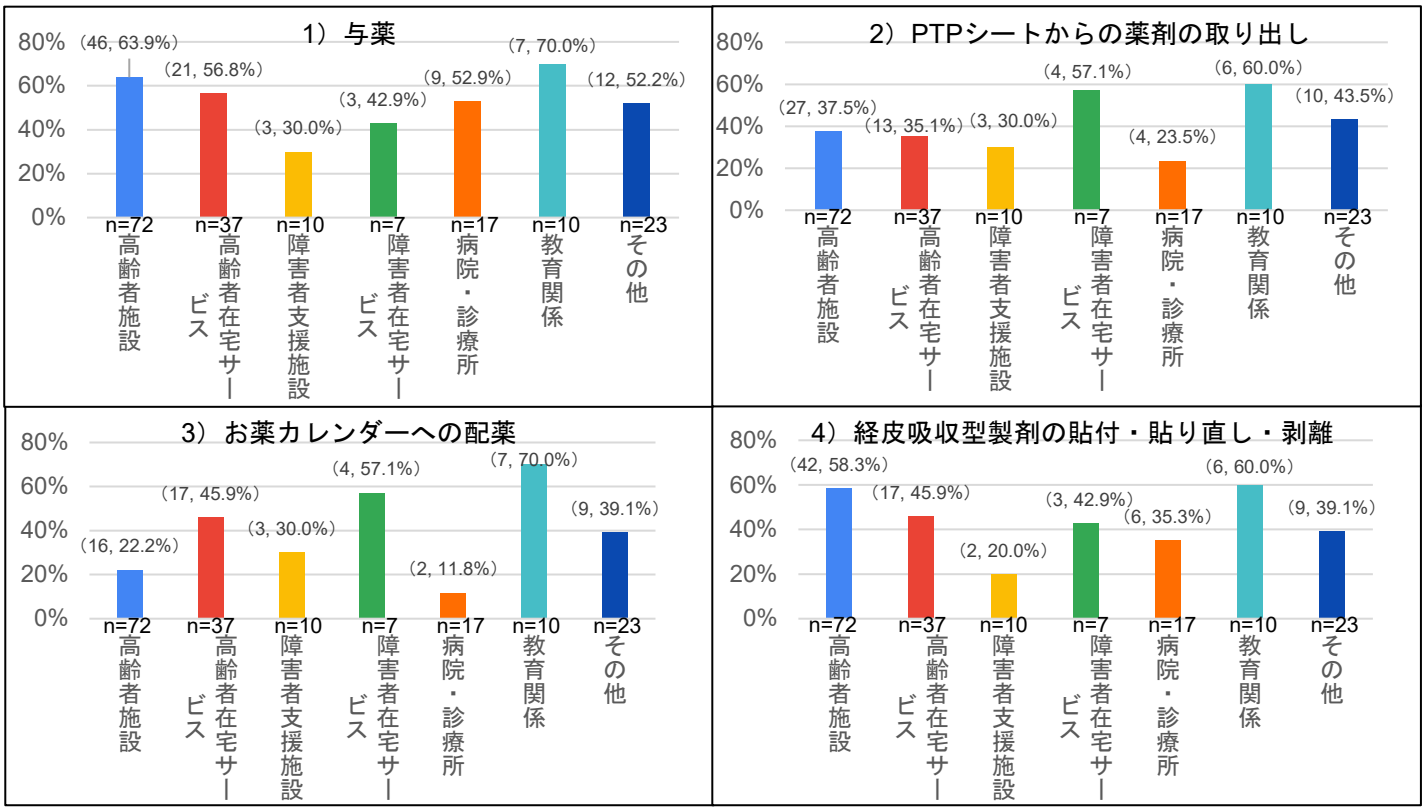
図３は、服薬等に関する医行為について、勤務先の種別ごとに「見聞きしたことがある」の回答を抽出したものである。なお、勤務先の種別ごとの回答をみる場合には、実数が小さくなっていることに留意する必要がある（以降においても同様）。

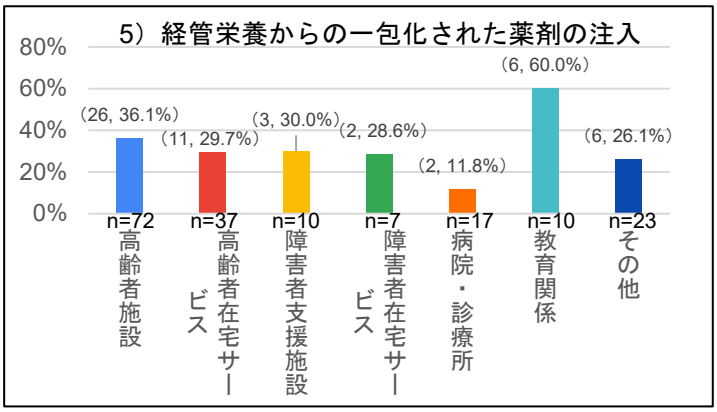
「PTP シートからの薬剤の取り出し」「お薬カレンダーへの配薬」については、障害者在宅サービスでの「見聞きしたことがある」の回答の割合が顕著に高かった。また、「お薬カレンダーへの配薬」は、障害者在宅サービスに加え、高齢者在宅サービスでも「見聞きしたことがある」の回答の割合が高かったことから、在宅の場に特徴があることが窺える。

また、「経皮吸収型製剤の貼付・貼り直し・剥離」については、回答者全体の回答結果（図２）と比較すると、高齢者施設において、「見聞きしたことがある」の回答の割合が 10 ポイント程度高かったことは特徴的である。

なお、いずれの行為も、教育関係で「見聞きしたことがある」の回答の割合が高かったことは特徴的である。

図３　勤務先の種別ごとにみた「見聞きしたことがある」の結果（服薬等に関する医行為について）





区分分けは、注 1 と同様

（2）排泄に関する医行為について

介護現場において、排泄に関する医行為に、医療職が適切なタイミングで対応しきれていない状況を見聞きしたことがあるか質問したところ（図 4)、摘便（目視できる場合）については、「見聞きしたことがある」が 99 人（56.3%)、「見聞きしたことがない」が 65 人（36.9%)、「分からない」が 12 人（6.8%）であった。処方されたグリセリン浣腸を用いた浣腸については、「見聞きしたことがある」が 64 人（36.4%)、「見聞きしたことがない」が 92 人（52.3%)、「分からない」が 20 人（11.4%）であった。蓄尿バッグの交換（破損時等）については、「見聞きしたことがある」が 54 人（30.7%)、「見聞きしたことがない」が 101 人（57.4%)、「分からない」が 21 人（11.9%）であった。蓄尿バッグの膀胱留置カテーテルとの接続（DIB キャップへの交換等）については、「見聞きしたことがある」が 48 人（27.3%)、「見聞きしたことがない」が 106 人（60.2%)、「分からない」が 22 人（12.5%）であった。膀胱留置カテーテルに溜まった尿のミルキングについては、「見聞きしたことがある」が 71 人（40.3%)、「見聞きしたことがない」が 81 人（46.0%)、「分からない」が 24 人（13.6%）であった。ストーマ装具（パウチ）の交換（汚染時等）については、「見聞きしたことがある」が 71 人（40.3%)、「見聞きしたことがない」が 83 人（47.2%)、「分からない」が 22 人（12.5%）であった。

図 4　排泄に関する医行為について　　n＝176

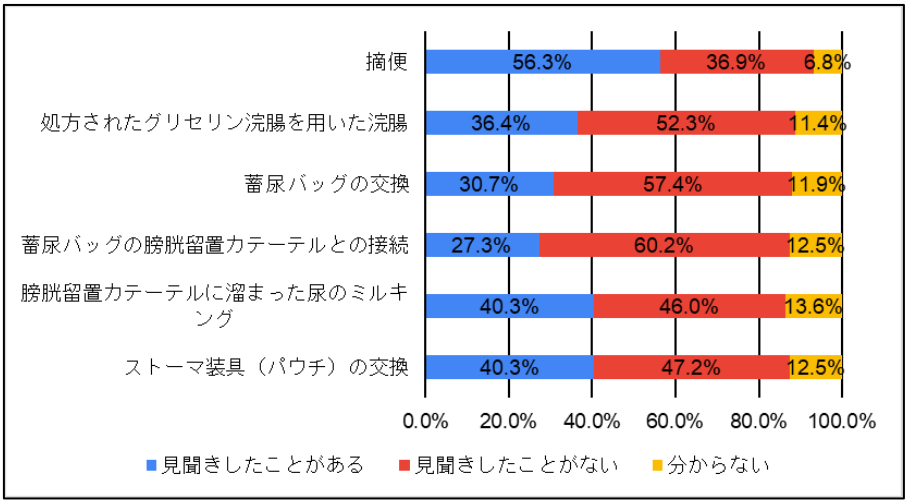


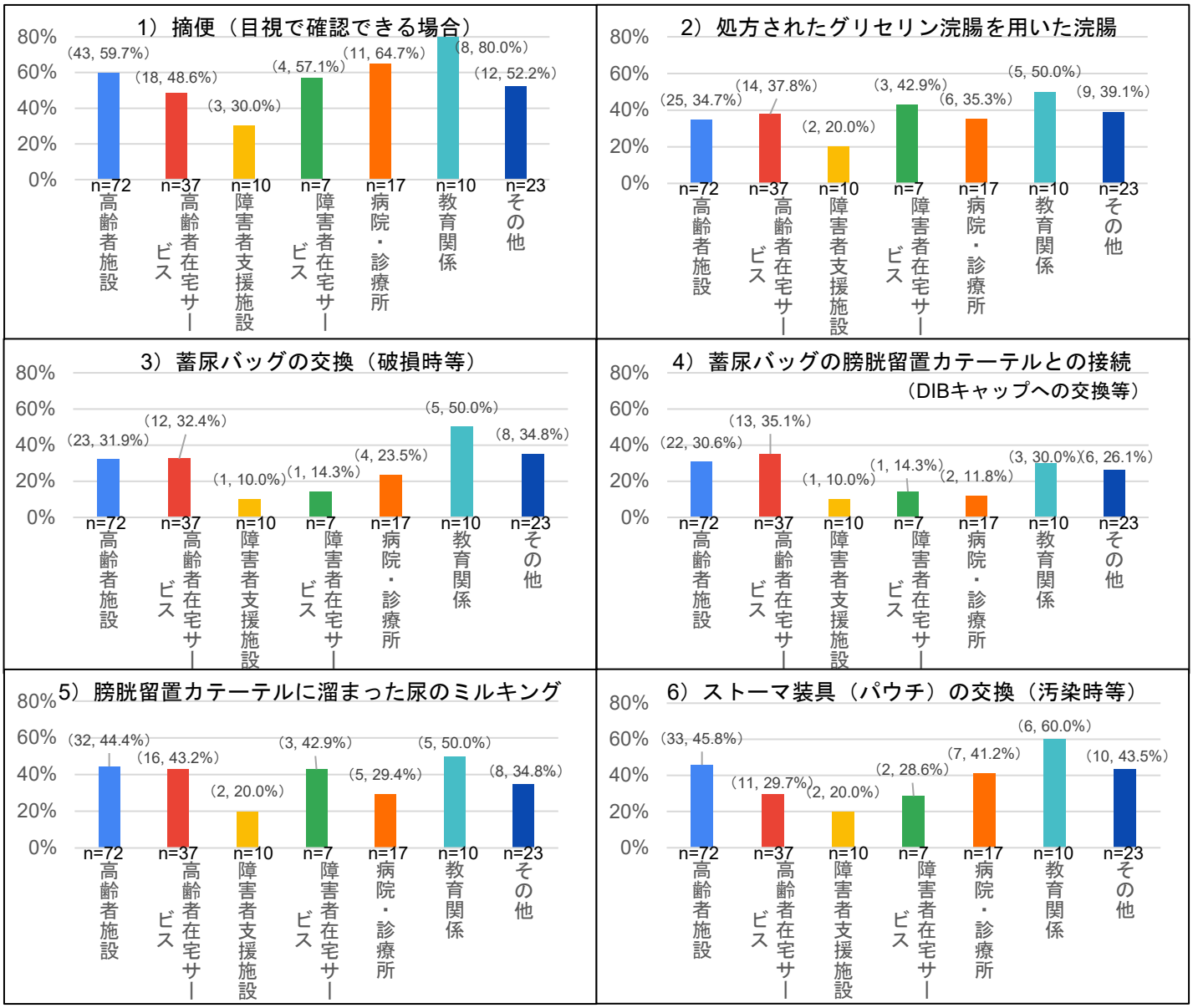
図 5 は、排泄に関する医行為について、勤務先の種別ごとに「見聞きしたことがある」の回答を抽出したものである。

「摘便（目視で確認できる場合)」「処方されたグリセリン浣腸を用いた浣腸」「膀胱留置カテーテル

に溜まった尿のミルキング」については、障害者支援施設での「見聞きしたことがある」の回答の割合が低かったこと、「ストーマ装具（パウチ）の交換（汚染時等）」については、回答者全体の回答結果（図 4）と比較すると、高齢者在宅サービスにおいて、10 ポイント程度「見聞きしたことがある」の回答の割合が低かったことは特徴的である。

また、いずれの行為も、教育関係で「見聞きしたことがある」の回答の割合が高かったことは特徴的である。

図 5　勤務先の種別ごとにみた「見聞きしたことがある」の結果（排泄に関する医行為について）



区分分けは、注 1 と同様

（3）在宅酸素療法に関する医行為について

介護現場において、在宅酸素療法に関する医行為に、医療職が適切なタイミングで対応しきれていない状況を見聞きしたことがあるか質問したところ（図 6）、酸素濃縮器の on/off については、「見聞きしたことがある」が 68 人（38.6%）、「見聞きしたことがない」が 72 人（40.9%）、「分からない」が 36 人（20.5%）であった。酸素濃縮器と携帯酸素ボンベの切り替えについては、「見聞きしたことがある」が 67 人（38.1%）、「見聞きしたことがない」が 69 人（39.2%）、「分からない」が 40 人（22.7%）

であった。酸素マスクや経鼻カニューレの一時的な脱着（衣服の着脱時など）については、「見聞きしたことがある」は 70 人（39.8%）、「見聞きしたことがない」が 71 人（40.3%）、「分からない」が 35 人（19.9%）であった。

図 6　在宅酸素療法に関する医行為について　　n＝176

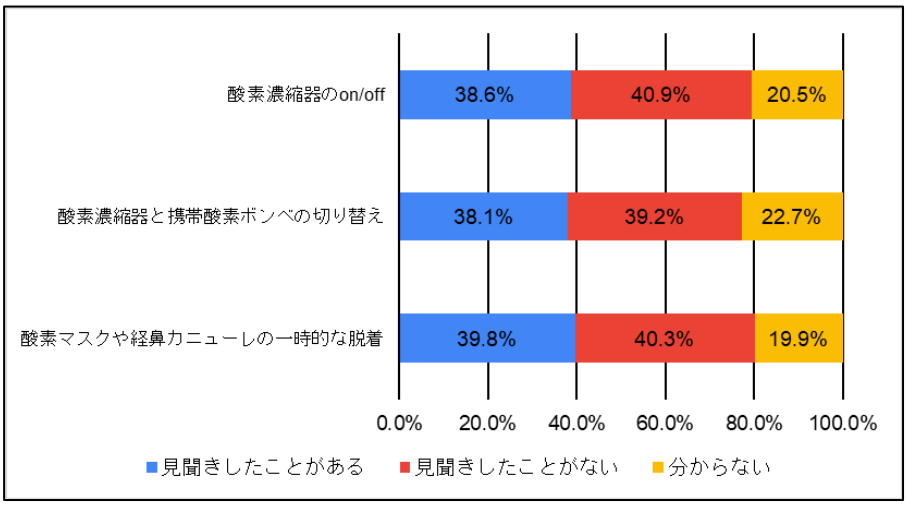
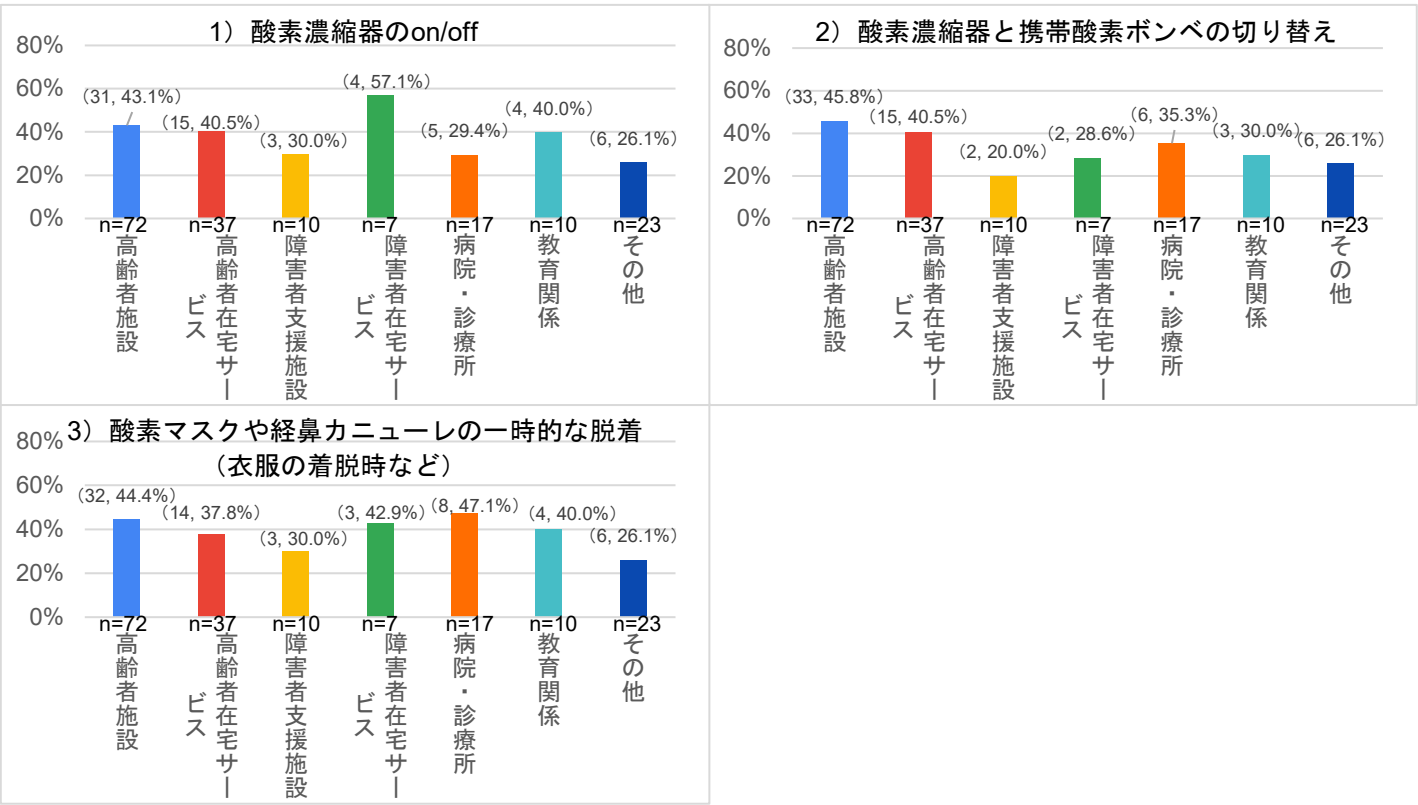


図 7 は、在宅酸素療法に関する医行為について、勤務先の種別ごとに「見聞きしたことがある」の回答を抽出したものである。

「酸素濃縮器の on/off」「酸素マスクや経鼻カニューレの一時的な脱着（衣服の着脱時など）」については、障害者在宅サービスでの「見聞きしたことがある」の回答の割合が高かった。

また、いずれの行為も、回答者全体の回答結果（図 6）と比較すると、高齢者施設において、「見聞きしたことがある」の回答の割合がやや高かったことは特徴的である。

図 7　勤務先の種別ごとにみた「見聞きしたことがある」の結果（在宅酸素療法に関する医行為）



区分分けは、注 1 と同様

（4）血糖測定に関する医行為について

介護現場において、血糖測定に関する医行為に、医療職が適切なタイミングで対応しきれていない状況を見聞きしたことがあるか質問したところ（図 8）、血糖測定については、「見聞きしたことがある」が 68 人（38.6%）、「見聞きしたことがない」が 87 人（49.4%）、「分からない」が 21 人（11.9%）であった。インスリン注射（決まった単位数へのダイヤル合わせ、皮膚への穿刺）については、「見聞きしたことがある」が 66 人（37.5%）、「見聞きしたことがない」が 90 人（51.1%）、「分からない」が 20 人（11.4%）であった。

図 8　血糖測定に関する医行為について　　n＝176

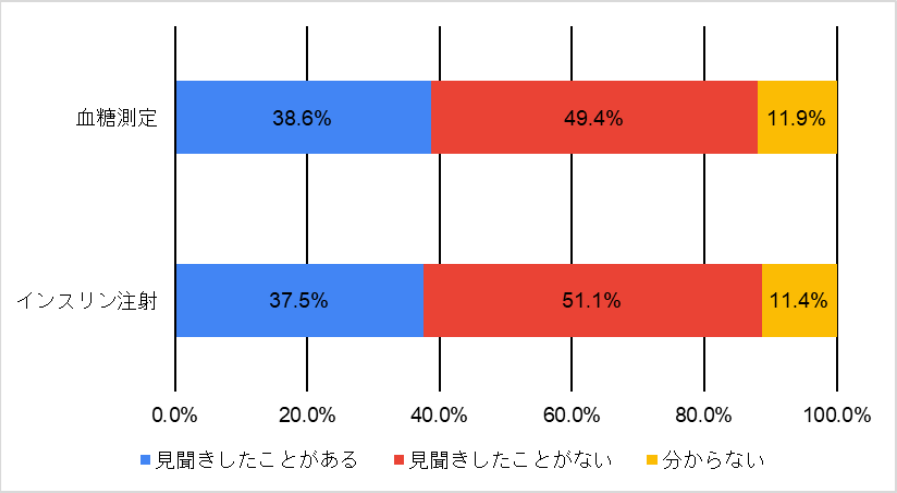
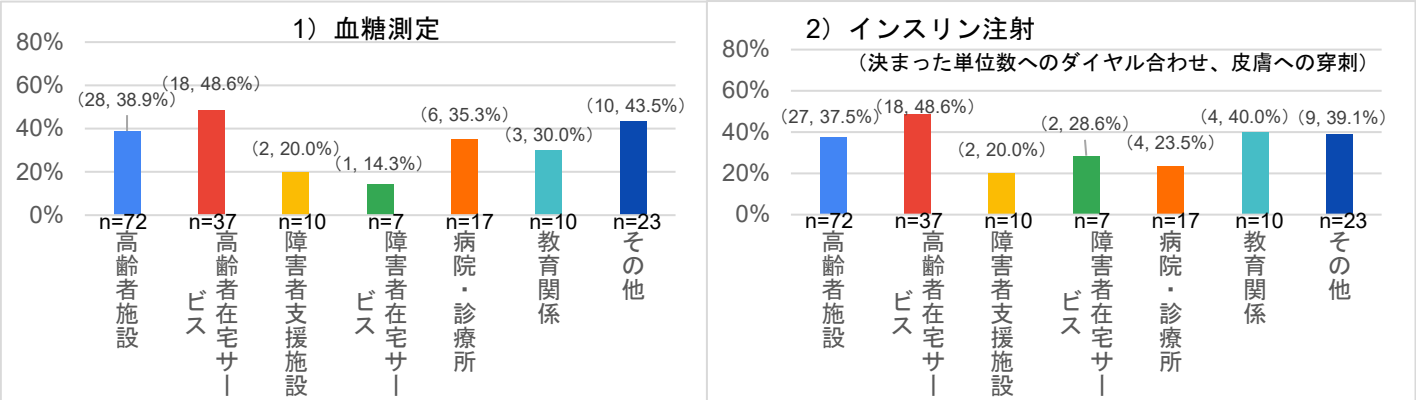


図 9 は、血糖測定に関する医行為について、勤務先の種別ごとに「見聞きしたことがある」の回答を抽出したものである。

回答者全体の回答結果（図 8）と比較すると、「血糖測定」「インスリン注射（決まった単位数へのダイヤル合わせ、皮膚への穿刺）」ともに、高齢者在宅サービスで「見聞きしたことがある」の回答の割合が高かったこと、「血糖測定」では障害者支援施設及び障害者在宅サービス、「インスリン注射」では障害者施設、障害者在宅サービス及び病院・診療所で「見聞きしたことがある」の低かったことが特徴的である。

図 9　勤務先の種別ごとにみた「見聞きしたことがある」の結果（血糖測定に関する医行為について）



区分分けは、注 1 と同様

（5）その他の医行為について

介護現場において、その他 3 項目の医行為について医療職が適切なタイミングで対応しきれていな

い状
況を見聞きしたことがあるか質問したところ（図 10）、配慮を要する爪切り（爪白癬、巻き爪など）については、「見聞きしたことがある」が 110 人（62.5%）、「見聞きしたことがない」が 54 人（30.7%）、「分からない」が 12 人（6.8%）であった。褥瘡の処置（真皮を超える褥瘡）については、「見聞きしたことがある」が 75 人（42.6%）、「見聞きしたことがない」が 85 人（48.3%）、「分からない」が 16 人（9.1%）であった。褥瘡の処置（真皮を超えない褥瘡）については、「見聞きしたことがある」が 85 人（48.3%）、「見聞きしたことがない」が 79 人（44.9%）、「分からない」が 12 人（6.8%）であった。

図 10　その他の医行為について　　n＝176

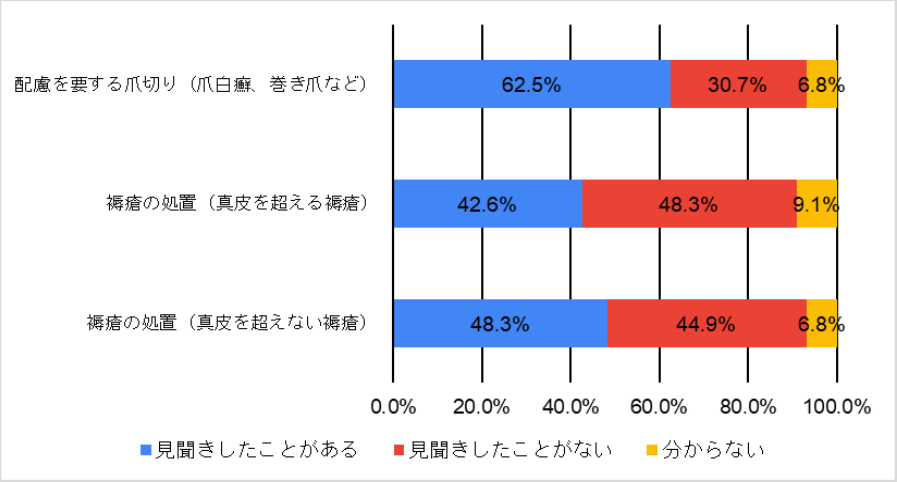
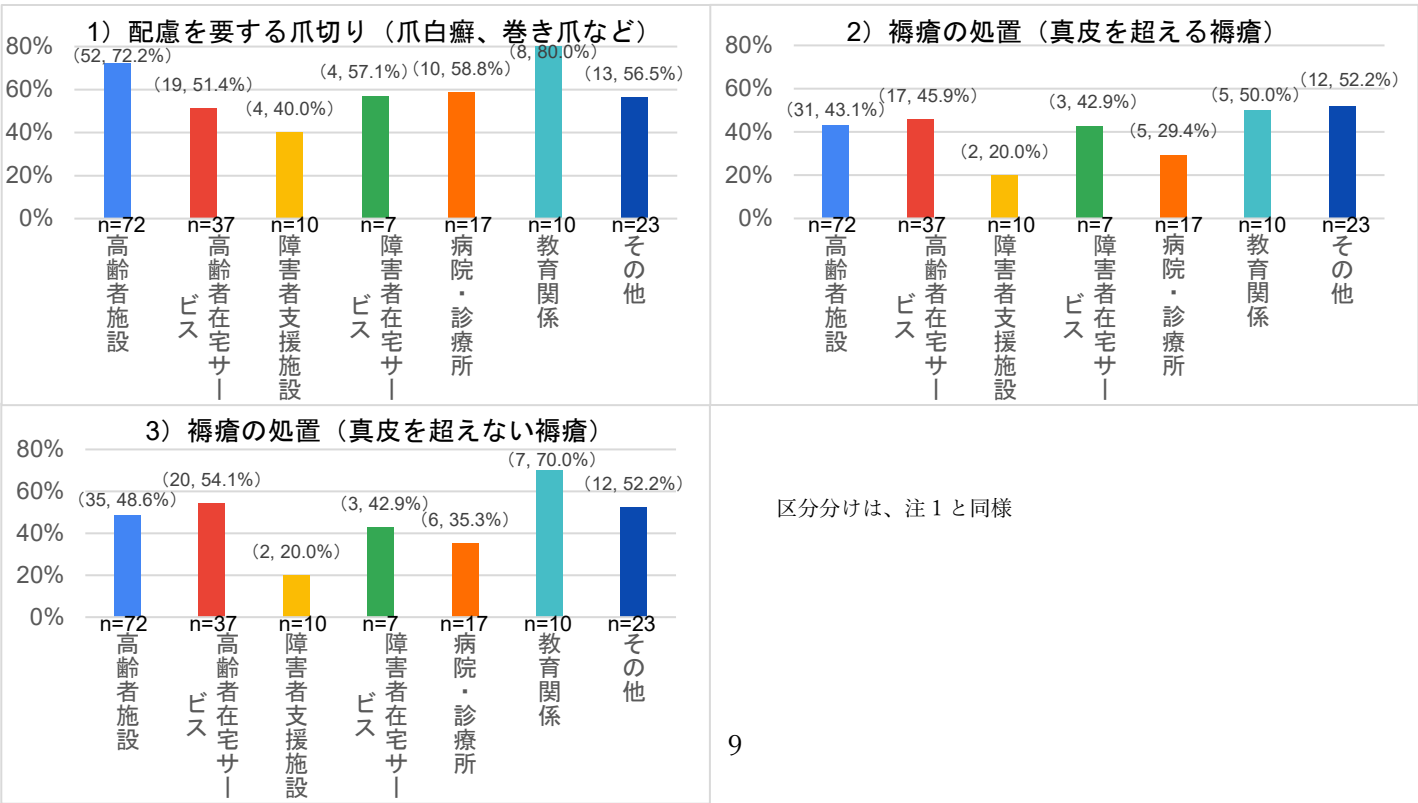


図 11 は、その他の医行為について、勤務先の種別ごとに「見聞きしたことがある」の回答を抽出したものである。

いずれの勤務先でも概ね回答者全体の回答結果（図 9）と類似した傾向であったが、各行為とも障害者支援施設では「見聞きしたことがある」の回答の割合は低かった。また、「褥瘡の処置」について、病院・診療所において、「見聞きしたことがある」の回答の割合が全体に比べて低かったことは特徴的である。

図 11　勤務先の種別ごとにみた「見聞きしたことがある」の結果（その他の医行為について）



区分分けは、注 1 と同様